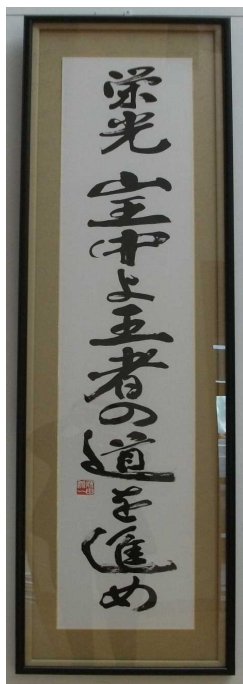


学校経営

平成30年度山王教育の概要 —— 山王やる気教育 ——

1 この理想を求め 山王教育の魂

学校経営の基調 人間性豊かに たくましく生きる



左右にあるのは、「王者山王」の象徴ともいえる、「栄光 山王中よ 王者の道を進め」の書と、創立60周年を機に新たに記された「山王魂 やる気燃ゆる者 道を拓く」の書である。

ここでいう「王者」とは、「豊かな人間性によって人をまとめていける人間」のことであると解釈すれば、学校経営の目指すところは、人間性豊かにたくましく生きる生徒を育むことにある。

山王教育は、理想や志を掲げ、さまざまな恵みによって生かされていることに感謝し、共に高め合い励まし合いながら豊かな人間性を培い、たくましく自立しようとする人間を育むことを目指す。

この基調を学校経営の根幹に据え、大事なときには必ず気力となって蘇ることを信じて継承していくこととする。



2 この旗幟を掲げ 山王中生と教職員の「やる気」パワー

学校教育目標

山王魂 やる気燃ゆる者 道を拓く
～志をもち、やる気をもって生き生きと活動する生徒の育成～

学校経営の基調を人間性の育成と捉えたとき、本校の重要課題の一つに、教育活動を貫く生徒の「主体性」の育成に関する指導体制の確立がある。「主体性」を「自らの意志や判断で行動すること」と捉えると、そこには自らの意志や判断を刺激し、覚醒させる心のはたらきがある。本校では、この心のはたらきを「やる気」と捉え、山王教育を展開する上でのキーワードとして継続する。

「やる気」は、積極的な心の営み（意志）であることから、黙っていても出てこないし、育ちもしない。やる気の源を深く探って、強く引き出して、育てて、言葉や行いとして具現するまで、教師と保護者と地域の人たちによる意図的な働き掛けが必要である。この働

きっかけで具現化する言動の内なるところの「やる気」をきちんと確かめてやれば、次の「やる気」が芽生える。「やる気」は、まさに連鎖性を秘めた「生きる力」そのものである。したがって、「やる気」を育むことに関しては、学校も家庭も地域も大切な教育の場であり、等しくその責を負うものであるとの共通認識に立ちたい。

本校では、生徒の「やる気」の源は夢や志にあると捉え、「夢は、生徒自身の目指すところ・目標」「志（こころざし）は、社会のため、人のために役に立つ人間になろうとする決意」と捉えることとした。とりわけ、「志」は「やる気の原動力」であり、社会の一員として「人生を切り拓いていく道標」となることから、学校のため、社会のため、人のために役立つことの喜びを実感できる活動を通して、自己の生き方を考え、「志」を育む教育を進めていく。

3 この方向を向いて 山王中をどこにでもある学校にはしないという「やる気」

学校教育目標の具現化に係る日常の実践に当たっては、「初めに生徒在りき、すべては生徒のために」の原点に立つこととし、教師の具体的な営みにあっては、「この指導は生徒にとってどうなのか」を判断の根本基準とすることを改めて確認したい。

学校経営方針

- 1 全教育活動を通じ、「やる気」の源、人生の道標となる「志」を育む教育を進める。
- 2 信頼関係のもと、「やる気」を引き出す生徒指導を進める。
- 3 「やる気」を引き出す、「分かる・できる・高まる」学習を進める。
- 4 「やる気」を共有する保護者・地域との絆を大切に、開かれた学校づくりを進める。

経営方針の具現化に向けて

- 1 学校風土を創る ～「やる気」がよく見えてよく分かる教育活動の推進～
生徒や教師の「やる気」は、山王中らしさが教育活動となって表れることにより、よく見えよく分かるようになる。この場合の具体的な活動場面としての授業、生徒活動、学校行事等においては、教師による教育指導の在り方がまずは問われる。
指導のマンネリ化こそが最大の教育公害であるとの認識に立つと、山王中をどこにでもある学校にはしないための創意工夫を生む学校風土が極めて大切となる。
 - (1) 仲良く助け合う学校風土の醸成を ～目に見える行動連携を～
 - (2) みんなが提案できる学校風土の確立を ～「どうすればできるのか」の発想を～
 - (3) 抽象から具体へ挑戦する学校風土の構築を ～専門性を分かりやすく～
- 2 生徒指導の機能を生かした教育活動の展開
学校は、「学校がやること（学校でないとできないこと）」、「家庭がやること（家庭でないとできないこと）」、「地域がやること（地域でないとできないこと）」を、みんなで共通理解して知恵を出し合って行動に移す「やる気本部」である。生徒の「やる気」は、学校のみならず家庭や地域においても一人一人がかけがえのない存在として大切に扱われることによって表出される心的エネルギーである。
したがって、多様な人間関係の中で「やる気」という心的エネルギーを生み出すための教育活動を実践することが、「やる気本部」である山王中の責務と考える。そのため、生徒指導の三機能を全教育活動に生かすことを校是として貫くこととした。

共通実践課題 「やる気」の行動化に向けた指導連携

現状の課題把握から発し、課題解決のための計画立て、実践、成果と課題の洗い出し、そして、新たな創意工夫へと連鎖する営みこそが、教育の専門職としての務めである。

特に、重点課題に係る共通実践の成果と課題については、検証改善サイクルを機能させることが極めて重要であり、その具体的な手立てを「見える化」させる必要がある。

「山王やる気教育」では、昨年以上に「やる気」を規範意識や公德心の向上に向けた具体的な言葉や行いとして表すこと、加えて、「やる気」の源となる「志」を育むことへの挑戦が主となる。また、「やる気」の具現化のポイントは、生徒の意識が言動として行動化するプロセスにあり、そのために意図的に関わる職員の指導連携が不可欠である。

重点実践事項1 「やる気」の源、人生の道標となる「志」を育む教育の推進

[志]とは、人の役に立つ人間になろうとする決意、多くの人を幸せにするため、よりよい社会をつくるため、何かを成し遂げようとする決意のことである。

(1) 自己を知り、「生き方」を考えるキャリア教育の推進

- ・総合的な学習の時間、特別活動、道徳の時間を軸に、全教育活動を通じて、自己を見つめ、生き方を考える学習の推進。
- ・他との関わりを通して、自己肯定感、自己有用感（世のため、人のためになることの喜び）を味わえる学びの推進。（仲間のため、学級のため、学年のため、チームのため、学校のため、多くの人々のために役立つことの喜びの享受）
- ・先人等の生き方を学ぶ学習の推進。
- ・志や夢、目標の実現へのアプローチ（行動化）を考える学習機会の設定。

(2) 多様な体験活動の推進

- ・自己の生き方につながる多様な体験の場の設定。

重点実践事項2 「やる気」を引き出す生徒指導 ～徳性を高める生徒指導の充実～

「知力」、「体力」は「徳」を伴って初めて、人や社会に役立つ力となる。人間は誰でも、「よりよい人間になりたい」と願っている。その内なる「やる気」を引き出す生徒指導を推進する。

(1) 人間関係を築く力と社会性を育てる「学級づくり・集団づくり」

- ・いじめ、不登校が生まれにくい良識という土壌づくり。
- ・私たちの合い言葉「日進月歩 あいさつの一歩、やる気の一歩、自律の一歩」の主体的、組織的な生徒活動による具体化。
- ・「みんなのためになり、自分のためにもなる」という行動規範のもとで、規律性の確保と公德心の醸成を意識できる校内環境づくり。

(2) 目標を意識した活動力と学校生活のうねりを育てる「メリハリづくり」

- ・生徒活動の中で推進される「やる気」キャンペーンの推進。
- ・体験活動、先人の業績、伝統と文化、スポーツなどの感動素材の教材化。
- ・学校生活で動と静を実感する「朝読書」、「タイムS」、「学級活動」の充実。

重点実践事項3 「やる気」を引き出し、生徒とともに創り上げる学習指導

よい授業は、主人公である生徒一人一人が、その時間にしっかり学んでいるかどうかを見極めつつ、授業の本流は変わらないものの、生徒の反応に合わせて変幻自在に変化していくもの、まさに、生徒とともに創り上げていくものである。

- (1) 「学ぶ楽しさ」、「分かる、できる喜び」を味わえる授業づくり
 - ・生徒指導の三機能を踏まえた授業づくり。
 - ・指導のねらいを生徒のめあてとして理解させる工夫。
 - ・自力解決を促す指導と評価の工夫。
 - ・進歩や成長を実感できる振り返りの工夫。
- (2) 「基礎的・基本的な知識・技能」が習得できる授業づくり
 - ・生徒の課題意識が「やる気」へとつながる課題設定や導入の工夫。
 - ・単元評価問題、学習状況調査、学習アンケート等での習得状況の確認。
 - ・個人差に応じた指導の工夫。
- (3) 「活用力」を伸ばすための授業づくり
 - ・思考を促し、課題解決の必然性を実感させる指導の工夫。
 - ・身に付けさせたい力の明確化。
 - ・言語活動を通した「問いを発する生徒」の育成。

5 こんな学校を目指します

メリハリの利いた「やる気」がよく見える山王中

目指す学校像 生徒の「やる気」が あいさつ、拍手、歌声となって響く学校

- 1 あいさつは、人を安心させる。
あいさつは、自分から心を開き勇気をもって相手に近付くという、いわばコミュニケーションの入り口でもある。自分からするあいさつには「やる気」が見えるはずである。
- 2 拍手は、人を元気にさせる。
人は、喜びや驚き、称揚、敬意などを感じたとき、拍手することで意思表示をし、気持ちを伝えようとする。拍手は、いわばコミュニケーションの伝播である。相手に伝えようとする拍手には「やる気」が見えるはずである。
- 3 歌声は、人を感動させる。
情感のこもった歌声は、多くの人々の心に届く。また、一人一人の歌声が輻輳し共鳴し合った時、その情感は力となって一人一人の心の最も内なるところへ帰趨するという、いわば心と心の高度なコミュニケーションである。聴く人の心に染み渡り、響き合い増幅する歌声には「やる気」が見えるはずである。

私たちの合い言葉 日進月歩

～あいさつの一歩 やる気の一歩 自律の一歩～

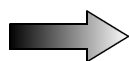
山王中創立60周年を期して決定した「私たちの合い言葉」は、山王中生の次代に向けての弛まない歩みを「あいさつ」、「やる気」、「自律」の言葉に託した全校生徒の総意として実に意義深い。

この勢いを反映する「目指す生徒像」については、山王中生の更なる伸長が期待される「熱い心、強い意志、思いやりの心」を引き続き骨格に据えることとする。

目指す生徒像

1

「やる気」を生み出す
熱い心をもつ山王中生



「進取」の気概



よりよいものをつくるために
自分にできることを考え、率先して行動できる生徒

問いを發する生徒の「やる気」
私にとっての「甘えやわがままからの脱却」とは、
どんなことをすることだろう？

2

「やる気」を行動で示す
強い意志をもつ山王中生



「自立」の力

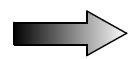


よりよい生き方を求め、
その実現のために
自らの進路を切り拓いていこうとする生徒

問いを發する生徒の「やる気」
私にとっての「目標を意識した行動」とは、どんな
ことをすることだろう？

3

「やる気」を支え合う
思いやりの心をもつ山王中生



「共生」の心



互いに認め合い、他や集団のために
役割や責任を果たすことができる生徒

問いを發する生徒の「やる気」
私にとっての「みんなのためになり、しかも、自
分のためにもなる」こととは、どんなことをすること
だろう？

7 こんな先生たちで

「やる気」を意識した先生の方もまた無限大
～「やる気」、「本気」、「元気」な先生たち～

目指す教師像 「師弟同行」に徹する教師

- 1 生徒の「心」に語り掛ける教師
一見穏やかな生徒にも、実は激しい情動の沸点がある。その逆の生徒もいる。生徒と教師の呼吸がぴたっと合う「合気」がないと山王教育はできない。
- 2 生徒の「心」に張り合いをもたせる教師
頑張れば手が届くめあてをもたせ、やり方や学び方を分かりやすくし、頑張ったことを評価する責任が教師にはある。
- 3 生徒の「やる気」を深く探って強く引き出す教師
「凡庸な教師はよくしゃべり、円熟した教師はよく理解させ、賢明な教師は行為で示し、偉大な教師は子どもの心に火を付ける。」(ウィリアム・アーサー・ワード)

8 こんな絆づくりをとおして

3つの「やる気」プランで創る絆

山王絆プロジェクト 人と人との絆を実感する3つの「やる気」プラン

